

科目名	学習・認知心理学			授業の種類	講義・演習	講師名	
授業回数	23回	時間数	45時間 (2単位)	配当学年・時期	言語聴覚士科1年	必修・選択	必修
<p>〔授業の目的・ねらい〕</p> <p>言語聴覚療法の対象である知覚・認知・学習・言語などの障害を理解するには、それらに関する一般健常者のメカニズムを知っておくことが前提となる。本講義では、その中心的な分野のひとつである学習・認知心理学の基礎を学ぶ。</p>							
<p>〔授業全体の内容の概要〕</p> <p>人間の知覚・認知・学習・言語などについて行われてきたこれまでの実験や調査を学び、そのメカニズムや理論がいかにして作られたかを紹介してゆく。必要に応じて、実際に実験や調査を体験してもらう予定である。</p>							
<p>〔講師の実務経験〕</p>							
<p>〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕</p> <p>学習・認知心理学の基礎を理解し、次のステップであるその障害の理解の準備をする。また、医療現場で用いられる学習・認知心理学の用語を誤用なく理解・使用できることを目標とする。</p>							
回数	講義内容						
1	心理学における学習と認知						
2	感覚・知覚Ⅰ(感覚の種類, 感覚間の相互作用, 閾, 触覚)						
3	感覚・知覚Ⅱ(視覚①明暗, 色彩, 恒常性)						
4	感覚・知覚Ⅲ(視覚②錯視, 形・奥行き・運動知覚)						
5	感覚・知覚Ⅳ(視覚③視知覚の発生・損傷)						
6	感覚・知覚Ⅴ(聴覚)						
7	記憶Ⅰ(記憶の過程)						
8	記憶Ⅱ(短期記憶・ワーキングメモリー)						
9	記憶Ⅲ(長期記憶①記録・保持)						
10	記憶Ⅳ(長期記憶②想起・忘却・変容)						
11	記憶Ⅴ(記憶の神経学的基礎)						
12	学習Ⅰ(古典的条件付け)						
13	学習Ⅱ(オペラント条件付け)						
14	学習Ⅲ(技能学習・社会的学習)						
15	学習Ⅳ(動機づけ・情動)						
16	思考Ⅰ(問題解決・思考の認知発達)						
17	思考Ⅱ(知識・推論)						
18	思考Ⅲ(発見・コンフリクト)						
19	言語と非言語Ⅰ(象徴・記号・図記号)						
20	言語と非言語Ⅱ(言語の形成・理解・表出)						
21	言語と非言語Ⅲ(非言語コミュニケーション)						
22	まとめⅠ						
23	まとめⅡ						
【 準備学習・時間外学習 】							
【 使用テキスト 】							
書籍名		著者名		出版社			
心理学(第5版)				東京大学出版会			
【 単位認定の方法及び基準(試験やレポート評価基準など) 】							
試験、100点満点で評価する。							